



「きゃべつの会」は京都市下京区・南区にお住まいのがん患者さん、ご家族がお茶を飲みながら交流し生きる力を取り戻す「地域の患者サロン」（下京西部医師会主催）です

ごあいさつ

キャベツ会の皆様、この会を主催しております下京西部医師会会長の中野昌彦でございます。主催者にも関わらず、定例の例会には欠席ばかりでたいへん申し訳ございません。しかし、刊行物、会議の議事録等にはきっちり目を通して現在進行中の行事の内容は概ね把握致しておりますが、どうか非礼をお許し下さい。

さて、以前にもこの会報で同様の記事を載せましたが、“がん”という病名から私が受ける印象についてお話ししたいと思います。がん、という言葉のドイツ語訳のクレブス (Krebs)、英語訳のキャンサー (Cancer) の語源はいずれもギリシャ語のカニを意味するカルチノウスと言われております。カニは全身を固い外骨格で覆われており見た目からしても固そうな生き物で、体内に発生したがんも固い病変なので、双方固いというところが共通点でこの様な命名が成されたと言われております。一方、日本語のがんという単語もこれらの語源であるカニと同様、少なくとも私にとっては固い印象を響かせます。

医療界において、この病気及びこの病気を取り巻く環境は、この病名から受ける印象と同様に固い印象に満ち溢れているのではないかと私には思えてなりません（私の思い込みだけであればよいのですが）。この病気と上手に付き合っていくためには、固い印象、雰囲気前面に押し出されているばかりでは、患者様にとりましての有益な療養環境には結び付かないと私は考えております。

この会は、医療者と患者様及びその家族の皆様が、お互い胸襟を開いて気軽に何でも、時にはお茶でも飲んでお喋りをしながら、時には口角泡を飛ばして真剣に議論をしながら、お互い新たな気付きがあり、寄り添い合うことが出来る、そういう場所であられます様、会内の多職種の医療関係者が喧々諤々切磋琢磨しているところでございます。

この会の持ち方につきまして、いろいろご意見ご指摘を頂戴しまして、この会が患者様、ご家族の皆様にとりましてより有意義なものに成長していけます様知恵を巡らせて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人 下京西部医師会 会長 中野昌彦

きゃべつの会のみなさんに

以前、京都九条病院で外科をしていた北川です。住み慣れた京都を離れて4月からは愛媛県に移住しています。石鎚山を含む四国山脈が一望できるところに住んでいます。先日からは石鎚山には雪が積もっています。愛媛といえど温暖なイメージだと思っていたのですが、結構寒いんです。駅近くに住んでいるのに、街中でもときどき狸を見るような田舎です（笑）。

さて皆さんはどのようにお過ごしでしょうか？きっと京都はとても寒いでしょうね。

コロナ禍で3年が経とうとしています。最近、思っていたことを徒然に、

先日、抗がん剤で免疫が低下しているがん患者さんに何に気をつけたらいいかを説明していました。

『人混みを避けて、外に出るときはマスクしてください。／こまめに手を洗って、消毒してください。』

あれ？これって、普通の人もみんな毎日やってることですよね。普通の人が化学療法を受けているがん患者さんと同じことを気をつけている。

それでも、急に感染して、入院したり、仕事を休んだり。

普通の人の生活のスタイルが大きく変化した今はもしかしたら、がんの患者さんを取り囲む環境も変化しているのではないのでしょうか？がんの患者さんたちの悩みをより身近に感じたりできるようになっているのではないかと期待します。

もう一つ、

コロナ禍でリアルな患者会は開催ができなくなりました。先日、WEBを使った（パソコンでの）患者会が成功裏に開催されたと聞いています。これもコロナ禍がなければ、実現できなかったことと思えば、悪いことばかりでないように思えてきます。

それでは、充実した毎日が送れますように。

北川一智

みなさま、こんにちは。京都九条病院の前田です。

今年の9月から2年任期で、厚生労働省のがん対策推進協議会に患者委員として参加しています。

6年ごとに見直される国のがん対策推進基本計画ですが、来年度から第4期が始まるため急ピッチで開催された協議会で様々な要望を伝えてきました。

第4期もがん予防、がん医療、がんとの共生の3本の柱にそれを支える基盤、推進するための必要な事項という構成が濃厚で、新たにデジタル化の推進、患者・市民参画の推進、感染症のまん延や災害等を見据えた対策、アビランスケア、自殺対策などが入ります。

患者・市民参画の推進については、様々ながん対策に患者家族や一般市民も入って議論し、よりよいがん対策にしていくことを目指します。厚生労働省の協議会にも委員20名のうち4人が私のようにがんを経験した委員ですので、参画の推進はうれしいことです。

また、がんと診断された時からの緩和ケアの推進も多くの要望が出ました。がん患者・家族は体だけでなく様々な痛みや苦痛を抱えており、早期からその対策に力を入れることが盛り込まれる予定です。患者さんも痛みや苦痛を我慢せずに伝えてよいことを知っていただきたいと思います。

年明けにはがん対策推進基本計画（案）が公表され、パブリックコメント（意見公募）があります。誰もが内容を確認し要望や意見を伝える機会ですので、この国が目指す、すなわち私たち全員が対象となるがん対策に関心を持って参加していただきたいと思います。

京都九条病院 前田留里



お願いします

今回の会報誌の担当は
下京西部医師会です

【友だち登録にはLINE アプリが必要です】

①スマートフォン等でQRコードを読み取ってください。

② ID検索LINE アプリで「友だち追加」「ID検索」で「@903NUYTA」を入力してください



ID: @903NUYTA

発行:一般社団法人下京西部医師会

〒601-8452 京都市南区唐橋
堂ノ前町15-9 エステート南ビル301
☎075-693-3900 ㊟075-693-3911

2022年度

活動報告

下西医師会 前田康秀

患者会の皆様に「きゃべつの会」の活動を知っていただけるよう会誌を発行し、ホームページを更新しました。そして12月、3年ぶりに「きゃべつの会 WEB 患者会」を開催しました。来年度は皆さまと対面で会話できる「きゃべつの会」を目指して活動していきます。

主な活動内容

▶2022/6/29

きゃべつの会 サテライト開催（やすだ医院）
患者会 10 名参加

▶2022/12/3

きゃべつの会（WEB 開催） 患者会 5 名参加

開会のあいさつ 安田雄司先生

講演① 「ことばの大切さ」 川上明先生

講演② 「どうする？ この冬の過ごし方」

高安郁代看護師

閉会のあいさつ 廣間文彦先生

▶きゃべつの会 会誌発行（担当）

3月 第6号（京都南病院）

6月 第7号（康生会武田病院）

9月 第8号（京都九条病院）

12月 第9号（下西西部医師会）

▶実行委員会 WEB 会議（10 回）

2022/1/26 3/23 5/21 6/22 7/22 8/24

9/28 10/26 11/30 12/14

ひと言メッセージ

急激な寒さ!!「さむい、さむい」と、つい
い言っちゃいますが……。
「体調管理に気を付けて」と言われても、
こんなに寒いと難しい。
でも、季節を感じるという素敵なことを実
感しているのだと考えたら、寒さを乗り越
えられる気がする。
2023 年、「きゃべつの会」が皆さまと共に、
たくさん素敵なことを感じる年になります
ように。

康生会武田病院
患者サポートセンター 杉本美和

きゃべつの会にご参加の皆さん、
コロナ禍で中止が続き御免なさ
い。皆さんのことを忘れていませ
んよ！

やすだ医院 安田雄司

web 開催ができたこと、とても嬉
しく思います。次も早く開催した
いですね。
お会いできる日を楽しみにしてい
ます。

京都南病院 吉岡真弓

コロナが流行してからは、今まで
の様には集まっただけの患者会が出来
にくくなってしまいました。
しかし新たなやり方を模索してい
ます。より良い会が出来るように
一緒にしていきましょう。

新京都南病院 廣間文彦

2022 年 4 月よりきゃべつの会に
も参加させていただきました。来
年こそはじかに患者さんと接した
いです。

京都九条病院 稲田聡

皆様、ちょっと話したい時にきゃ
べつの会を思い出してください。
ぜひ、またお会いしましょう。

京都九条病院 高安郁代

稲荷大社は「商売繁盛」の祈願。
医者の方々の繁盛はなかなかない。今
年は孫ができるので安産祈願に行
こう。

宇治徳洲会病院 川上明

患者会の皆様、今年は Web できゃ
べつの会ができましたが、来年こ
そ皆さんが集まってきゃべつの会
が開催できる年になるように期
待しています。

康生会武田病院 永田一洋

今年も何とか 1 年が過ぎようと
しています。来年もまた一歩ずつ一
緒に歩んでいきましょう。

柴地クリニック 柴地隆宗